

第5学年国語科学習指導案

1 単元名 作品を自分なりにとらえ、推薦文を書こう 「大造じいさんとガン」

2 指導の考え方

—子どもの実態—

本学年の子どもたちは、これまでに伝記「百年後のふるさとを守る」の学習で、人物の考え方や生き方を読み深め、自分を見つめ直し、自分の生き方について考えてきた。学習後には「自分の生活に役立った」「学習してよかった」と読むことの価値を実感する子どもも多くいた。物語文「のどがかわいた」では、心情を表す言葉や文に着目し、登場人物の相互関係や心情をとらえることができるようになってきている。

しかし、暗示的に表現された心情を想像豊かに読み取ったり、読み取った内容から自分の考えをまとめ、共通点や相違点を見い出して話し合ったりする力は十分ではない。

—教材の特質—

本教材は、大造じいさんとガンの頭領である残雪との戦いを通して、場面ごとに大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちに変化していく過程を、叙述にしたがって読み取っていくことができる作品である。大造じいさんのガンに挑む姿と残雪の堂々とした姿は、児童の感受性に強く訴える力をもっている。

本教材の次のような特質を生かすことにより、目指す力である「登場人物の相互関係から人物像やその役割をとらえる力」を身につけさせることが期待できる。具体的には以下の3点である。

- ① 前書きと四つの場面から構成されており、前書きには、語り手が「わたし」として登場し、読み手を物語の世界に誘い込む役割を果たしている。
- ② 作品は、大造じいさんと残雪の戦いが起承転結の形で四つの場面で展開され、その展開を追う中で、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を思い描けるようになってきている。
- ③ 文章表現の特質としては、呼称の変化を表す言葉の工夫や文末表現の工夫があり、類義語や指示語の使い分けなどが巧みで、児童に言葉の読み方を身に付けさせるのに適している。

—指導にあたって—

指導にあたっては、読むことの楽しさや価値を実感させることができるように、以下のような授業づくりを行う。

単元の入り口では、単元名「作品を自分なりにとらえ、推薦文を書こう」から椋鳩十の作品を読み、9月から読んでいる作品の中で心を打たれたところを中心に推薦文を書いて友達に紹介しようという学習の構えをもたせる。

読みのめあてをつくる段階では、題名と前書きから「語り手は大造じいさんの姿を通して何を伝えたいのだろうか」という読みのめあてをつくり、全文を読み通して、読みのめあてに対する初めの考えをまとめさせる。

学習計画を立てる段階では、大造じいさんの残雪に対する気持ちが分かる叙述を根拠として話し合い、それがどう変わったのか、変えたものは何かを読み深める視点とし、読み深めのめあてをつくる。

読み深めの段階では、めあてにつながる文や言葉から初めに分かることを話し合い、さらにその理由を問う発問を行い、読み取ったことに対する自分の考えを書く（書く活動①）。そして、その理由や考えたことを話し合うことにより自分の考えを深める（かっぱタイム・全体交流）。最後にめあてに対しての自分の考えを書くことで大造じいさんの気持ちの変化を明らかにし（書く活動②）、各場面ごとに感動した箇所を推薦ポイントとして印を付けておく。

読みのまとめの段階では、自分の読み深めたことをもとに語り手が伝えたかったことについてまとめるとともに、自分が一番感動したところの推薦文（本の帯・ポップなど）を書く。

単元の出口では、椋鳩十の他の作品の中で友達に読んでほしい作品についても「大造じいさんとガン」で学習したことを生かして推薦文を書き、紹介する場を設定する。

☆焦点化

○書く活動①

- ・自分の考えを短く書き表す。
- ・大造じいさんの気持ちや気持ちを変えたものが分かる一文を選ぶ。

○全体交流

- ・さらに視点を絞った発問をする。

☆可視化

○板書

- ・前場面とつないで大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化を書き表す。
- ・自分の考えを短く書き表す。

○提示

- ・書く活動①の手順を明らかにする

☆共有化

○少人数による交流

- 目的をもった交流「旅」
- ・自分の考えを可視化しておく。

- ・付加・修正・強調する。

3 目標

- 残雪の頭領らしい態度を認め、かりゅうどとしての誇りをかけて正々堂々と戦おうとする大造じいさんの残雪に対する見方や思いの変化を読み取り、大造じいさんの生き方について考えることができるようにする。
- 前書きの役割に着目し、文章構成に気を付けながら、呼称の変化、文末表現、類縁語、情景描写を手がかりとして、人物の気持ちや見方の変化を読む読み方を身に付けることができるようにする。
- 互いに考えを出し合って重なりや違いを明らかにし、関係付けたりまとめたりするための少人数や全体による交流を行い、大造じいさんの残雪に対する見方や思いの変化について話し合うことができるようにする。

4 学習計画（全11時間）

次	時	学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化, 可視化, 共有化の視点から*評価規準)
一	1 / 11	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>題名と前書きから読みのめあてをつくろう。</p> </div> <p>1 単元名とリード文から、本単元の学習の構えをもつ。 2 題名「大造じいさんとガン」と前書きについて話し合う。 3 題名と前書きをつないで読み、読みのめあてをつくる。</p>	<p>○ 単元名とリード文をもとに、友達に色々な本を紹介するための推薦文を書くという学習の構えをもたせる。その際、「本の帯」や「ポップ」を見せ、子どもたちにイメージをもたせる。</p> <p>☆「も」「土台」「さあ、～お読みください。」に着目して考えさせる。(焦点化)</p>
		<p>作品を自分なりにとらえ、 ・人物の生き方や考え方などについて自分なりの感想をもつこと</p> <p>すいせん文を書こう ・読み深めたことや感動したことをすいせん文としてまとめ、友達に紹介する</p> <p style="text-align: center;">「大造じいさん」 (と) 「ガン」 題名を読む</p> <p>※じいさんのイメージをふくらませる。 ※二者のつながりに着目して読む。 ガンについて補説</p> <p>イノシシがりの人々は、～大造じいさんの家に集まりました。 <u>七十二さいだというのに、こしひとつ曲がっていない、元気な老かりゅうど</u> それからそれと、愉快なかりの話をしてくれました。 人物・時・場所を読む</p> <p style="text-align: center;">その話の中に、～ガンがりの話もありました。</p> <p>語り手の存在を読む ※たくさんあった話の中でも、特に心に残っている。 わたしは、その折りの話を土台として、この物語を書いてみました。 <u>さあ、～山家のろばたを想像しながら、この物語をお読みください。</u> ※聞いた話そのままではなく、書き手の強い思いを加えている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>読みのめあて 語り手は、大造じいさんの姿を通して何を伝えたいのだろうか。</p> </div>	
二	2 ・ 3 / 11	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>全文を読み、読みのめあてに対する初めの考えをまとめよう。</p> </div> <p>1 全文を読み、語句の意味や文章構成、おおまかな内容をとらえる。</p>	<p>○ 教師の範読を聞かせる。 ○ 難語句の意味を調べさせたり解説したりして、意味をとらえさせる。 ○ 一斉読み、一人読みなど音読の仕方を工夫して、すらすら音読できるようにする。</p>

<p>めあてに対する初めの考え</p>	<p>2 読みのめあてに対する初めの考えを書きまとめる。 【初めの考え】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・正々堂々と戦うこと ・あきらめずに何度も立ち向かうこと ・大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化 </div>	<p>☆ 時を表す叙述に着目させ、大造じいさんと残雪との戦いが一年ごとに描かれている文章構成をとらえさせる。(可視化)</p>
<p>三 学習計画</p>	<p>4 / 11</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読みのめあてに対する初めの考えをもとにして、読み深めのめあてをつくろう。</p> </div> <p>1 読みのめあてに対する初めの考えを出し合う。</p> <p>2 読み深めのめあてをつくる。</p> <p>【読み深めのめあて】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 思わず感嘆の声をもらしてしまった大造じいさんの気持ちの変化を読み深めよう。</p> <p>② 「ううん。」とうなってしまった大造じいさんの気持ちの変化を読み深めよう。</p> <p>③ ただの鳥に対してしているような気がしなかった大造じいさんの気持ちの変化を読み深めよう。</p> <p>④ いつまでも、いつまでも残雪を見守っていた大造じいさんの気持ちを読み深めよう。</p> </div>	<p>☆ 読みのめあてに対する初めの考えを短い言葉でまとめさせる。(焦点化) * 語り手の伝えたかったことを、簡潔にまとめている。</p> <p>☆ 自分の考えを出し合い、共通点や相違点を板書で整理していく。(可視化)(共有化)</p> <p>☆ 大造じいさんの残雪に対する見方が変化していることから、大造じいさんとガンの関係が変化していることに着目させる。(可視化) ☆ 大造じいさんの気持ちの変化が強く表れている叙述に着目させる。(焦点化)</p> <p>* 各場面で大造じいさんの残雪への見方、思いが強く表れていることが分かる叙述をとらえ、中心文を選んでいく。</p>
<p>四 読み深め ①</p>	<p>5 / 11</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>思わず感嘆の声をもらしてしまった大造じいさんの気持ちの変化を読み深めよう。</p> </div> <p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 大造じいさんの気持ちを読み深める。 (1) 1の場面を音読する。 (2) 「思わず感嘆の声をもらす」とはどういうことかについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>いまいましてって たかが鳥のこと ※じゃまもの・ばかにしていた ↓ ※言うつもりもなかったのに・・・ 『ううむ。』大造じいさんは、<u>思わず感嘆の声をもらしてしまいました。</u></p> </div> <p>(3) 計略が失敗し、思わず感嘆の声をもらした大造じいさんの気持ちについて自分の考えを書く。(書く活動①)</p>	<p>○ 中心文『ううむ。』大造じいさんは、思わず感嘆の声をもらしてしまいました。」を確認し、本時は残雪のちえに感心した大造じいさんの気持ちを読み深めていくことをとらえさせる。</p> <p>☆ 中心文と、大造じいさんの気持ちが分かる一文をつないで自分の考えを短</p>

- (4) 少人数で話し合う。(かっぱタイム)
- (5) 全体で話し合う。

く書くように指示する。(焦点化)
 ☆ 根拠を明らかにしながら短くまとめたそれぞれの考えを話し合わせ、自分の考えを付加、修正、強調させる。

残雪は、なかなかりこうなやつで～
 大造じいさんは～いまいまして思っていました。
 今年こそはと
 むねをわくわくさせながら 子どものように
たかが鳥のこと ※たいしたことはないと考えていた
 あの残雪が、仲間を指導してやったにちがいありません。
「うむ。」大造じいさんは、思わず感嘆の声をもらしてしまいました。
たいしたちえをもっている ※残雪のちえに驚き、感心した。
 言葉を比べて読む

3 本時学習をまとめる。

(可視化) (共有化)

- (1) めあてに対して深まった自分の考えをまとめる。(書く活動②)。

はじめは「たかが鳥」と、残雪のことを軽く見ていた大造じいさんだったが、ウナギつりばりのしかけを見破り、仲間を指導してえだけを飲みこんだ残雪の知恵に心から感心してしまった。

- (2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。
- (3) 推薦ポイントに印をつける。

* 中心文をもとに、叙述をつないだり比べたりして読み深めた大造じいさんの気持ちの変化を書きまとめている。
 ○ 自分の感動した箇所を選び、印をつけさせるようにする。

6
 /
 11
 (2
 組
 本
 時
)
 ②

「ううん。」とうなってしまう大造じいさんの気持ちの変化を読み深めよう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 大造じいさんの気持ちを読み深める。
 (1) 2の場面を音読する。
 (2) 『「ううん。」とうなってしまう』とはどういうことかについて話し合う。

○ 中心文「大造じいさんは、～『ううん。』とうなりました。」とはどういうことかを確認し、本時は、二年目の戦いでも残雪にしてやられてしまう大造じいさんの気持ちを読み深めていくことをとらえさせる。

思わず感嘆の声をもらして
 ↓
 大造じいさんは、『ううん。』とうなりました。 くなった
 ※がっかり・落ち込んでいる
 どうしていいのかわからない

- (3) なぜ、「『ううん。』とうなりました」のか大造じいさんの気持ちについて自分の考えを書く。(書く活動①)
- (4) 少人数で話し合う。(かっぱタイム)

☆ 大造じいさんの気持ちが変わった理由について考え、短い言葉でまとめさせる。また、その根拠となる一文を選ぶようにする。(焦点化)
 ☆ 根拠を明らかにしながら短くまとめたそれぞれの考えを話し合わせ、自分の考えを付加、修正、強調させる。
 (可視化) (共有化)

(5) 全体で話し合う。

☆ 「広いぬま地の向こうをじっとみつめたまま」という表現から大造じいさんの落胆の深さに気付かせる。

「ううむ。」大造じいさんは、思わず感嘆の声をもらしてしまいました。
 夏のうちから心がけて 小さな小屋をつくって ※大造じいさんの執念
あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れ込んで **情景を読む**
 ※今年こそは、という期待感

またしても、残雪のためにしてやられて

大造じいさんは、広いぬま地の向こうをじっとみつめたまま、
 「ううん。」となってしまいました。 **言葉を比べて読む**
 ※1年越しの作戦が失敗に終わり、がっかりして途方にくれている

3 本時学習をまとめる。

(1) めあてに対して深まった自分の考えをまとめる。(書く活動②)。

前の年、残雪の知恵に感心した大造じいさんは、夏から準備をはじめ、今年こそはと自信満々で作戦を実行したが、寸前のところで残雪に気付かれ失敗し、どうしていいか分からなくなってしまった。

(2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。

* 中心文をもとに、叙述をつないだり比べたりして読み深めた大造じいさんの気持ちの変化を書きまとめている。
 ○ 自分の感動した箇所を選び、印をつけさせるようにする。

(3) 推薦ポイントに印を付ける。

読み深め ③

7 / 11 (3組本時)

ただの鳥に対してしているような気がしなかった大造じいさんの気持ちの変化を読み深めよう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 大造じいさんの気持ちを読み深める。
 - (1) 中心文を音読する。
 - (2) 「心を打たれる」とはどのようなことか話し合う。

○ 中心文を読み、「強く心を打たれる」とはどのようなことを確認し、本時はハヤブサと戦う残雪の姿を目のあたりにして、大きく変化する大造じいさんの気持ちを読み深めていくことをとらえさせる。

大造じいさんは、強く心を打たれて、※感動した、ということ——→残雪のどんな姿に？
ただの鳥に対してしているような気がしませんでした。

(3) 残雪のどんな姿から「ただの鳥」ではなく何に対してしているような気がしたのかについて、自分の考えを書く(書く活動①)。

☆ 残雪のどんな姿から「ただの鳥」に対するような気がしなくなったのか、根拠となる一文に線を引かせ、解釈を加え、考えを書かせる。(焦点化)

(4) 少人数で話し合う。(かっぱタイム)

☆ 根拠を明らかにしながら短くまとめたそれぞれの考えを話し合わせ、自分の考えを付加、修正、強調させる。
 (可視化) (共有化)

(5) 全体で話し合う。

☆ 「~のようでした。」「~のようでもあ

りました。」という文末表現から、どうして大造じいさんはそこまで思えたのか考えさせる。

なかなかりこうなやつ
たかが鳥
あの残雪め

ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけ
 残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げ～
 ※頭領としての威厳ある様子

↓

じいさんを正面からにらみつけ
いかにも頭領らしい、堂々たる態度
 大造じいさんは、強く心を打たれて、
ただの鳥に対してしているような気がしませんでした。 **文末表現を読む**

呼称の変化を読む ※感動、尊敬の念がわき起こった

- 3 本時学習をまとめる。
 (1) めあてに対して深まった自分の考えをまとめる。(書く活動②)。

大造じいさんは、残雪を「たかが鳥」とか「にくい敵」など思っていたが、仲間を救おうとする姿や頭領としての堂々とした姿に深く感動して、鳥というより自分と対等、それ以上の相手だと思うようになった。

- (2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。
 (3) 推薦ポイントに印を付ける。

* 中心文をもとに、叙述をつないだり比べたりして読み深めた大造じいさんの気持ちの変化を書きまとめている。
 ○ 自分の感動した箇所を選び、印をつけさせるようにする。

8
 /
 11
 (1
 組
 本
 時)
 ④

残雪をいつまでも、いつまでも見守っていた大造じいさんの気持ちを読み深めよう。

- 1 本時のめあてを確認する。
 2 大造じいさんの気持ちを読み深める。
 (1) 4の場面を音読する。
 (2) 「見守っていました。」から、どんなことを考えているのかについて話し合う。

○ 中心文「いつまでも、いつまでも、見守っていました。」とはどういうことかを確認し、本時は残雪を見守る大造じいさんの気持ちを読み深めていくことをとらえさせる。

いつまでも、いつまでも、見守っていました。

※心配している **類縁語と比べて読む**
 ↓
 見守っていました 見送っていました

- (3) 大造じいさんがどんな思いで残雪を見守っていたのか、自分の考えを書く。(書く活動①)
 (4) 少人数で話し合う。(かっぱタイム)

☆ 中心文と、大造じいさんの気持ちが強く表れている一文とをつないで自分の考えを短く書くように指示する。(焦点化)
 ☆ 根拠を明らかにしながら短くまとめたそれぞれの考えを話し合わせ、自分の考えを付加、修正、強調させる。

(5) 全体で話し合う。

(可視化) (共有化)

☆「いつまでも、いつまでも」という表現から大造じいさんの思いの深さに気付かせる。

たかが鳥
目にも物を見せて
あの残雪め **呼称の変化を読む**

ただの鳥に対してしているような気がしませんでした ※獲物としてではなく同じ自然の中に生きるものとして尊敬して
いることの表れ

「おうい、ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつを、
おれは、ひきょうなやりかたでやっつけたかあないぞ。」
～また堂々と戦おうじゃあないか。
いつまでも、いつまでも 見守っていました。 **繰り返しを読む**
※長い長い時間 ※心配しじっと見つめていた

3 本時学習をまとめる。
(1) めあてに対して深まった自分の考えをまとめる。(書く活動②)。

残雪の頭領としての姿に感動し、残雪を尊敬し大切なライバルと考えるようになった。そして、きっと来年も生きて戻ってこいという気持ちを強くもっている。

(2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。
(3) 推薦ポイントに印を付ける。

* 中心文をもとに、叙述をつないだり比べたりして読み深めた大造じいさんの気持ちを書きまとめている。
○ 自分の感動した箇所を選び、印をつけさせるようにする。

五
読み
の
ま
と
め

9
/
11

語り手の伝えたかったことについてまとめよう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 自分の読みをまとめる。
 - ・読みのめあてにもどって
 - ・題名にもどって

☆ 今まで学習してきた大造じいさんの残雪に対する見方・気持ちの変化を揭示しておき、語り手の伝えたかったことを考えさせる。(可視化)

残雪の頭領らしい威厳のある態度に強く心を打たれ、春になって残雪を飛び立たせた大造じいさんの姿から、かりゅうどとしてのほこりや厳しい生き方を伝えたかった。と同時に、動物の偉大さ、すばらしさも伝えたかった。

3 本単元で使った「読みのたから」をふり返る。

- ・類縁語と比べて読む
- ・場面をつないで読む
- ・呼称の変化を読む
- ・繰り返しを読む
- ・文末表現を読む

* 初めの考えと比べて付加・修正・強調されたことをまとめ、身につけた「読みのたから」や内容を振り返っている。

		・会話文を読む	
六 推 薦 文 を 書 く	10 / 11	<p>「大造じいさんとガン」で感動したところを推薦文にまとめよう。</p> <p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 一番感動したところの推薦文を書く。</p> <p>3 推薦文を友達に紹介する。</p>	<p>○ 各場面で印をつけた箇所を振り返って、自分の感動したところを選ばせる。</p> <p>○ 推薦文のモデルを提示し、書きまとめる際の手がかりにさせる。</p> <p>* 「自分の心に響く叙述」を見つけて自分の考えを入れながら推薦文にまとめている。</p>
		<p>推薦文例 【心に残った一文】</p> <p>「いつまでも、いつまでも、見守っていました。」</p> <p>☆ ガンという鳥は一度群れから外れると生きていくのは非常に厳しい。しかし大造じいさんは「もしかしたら残雪なら・・・」という気持ちで残雪を逃がした。「生きて戻ってこい」という大造じいさんの残雪への心配と期待とが表れた一文です！！</p>	
		<p>推薦文例 【主人公の紹介】</p> <p>「大造じいさん」</p> <p>☆ 残雪（ガン）を打つことに何度も失敗してきた大造じいさん。初めは「たかが鳥」と思っていたが、残雪の仲間を救おうとする姿や頭領としての態度に強く心を打たれ、「英雄」とまで思うようになった。残雪との関係の中で、大造じいさんが狩人としてのほこりをもった人であるということが分かる。</p>	
	11 / 11	<p>推薦文を書いて、椋鳩十さんの本を紹介しよう。</p> <p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 作品の推薦文を書く。</p> <p>3 お互いの推薦文を読み合い、感想を交流する。</p>	<p>○ 「大造じいさんとガン」で推薦文を書いたことを生かして、以下の視点をもって推薦文を書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名 ・ 登場人物像 ・ 登場人物の気持ち ・ 作者の書きぶり <p>○ 感想を伝え合い、考えを広げ深めさせるようにする。</p> <p>* 「自分の心に響く叙述」を見つけて自分の考えを入れながら推薦文にまとめている。</p>
		<p>(紹介する本)</p> <p>○片耳の大シカ</p> <p>○マヤの一生</p> <p>○月の輪グマ</p>	<p>○孤島の野犬</p> <p>○大空に生きる</p> <p>○カモの友情 など</p>

5 本時(6/11)

公開授業② 読み深め②

6 本時の目標

- 『ううむ。』…感嘆の声をもらす」と『ううん。』とうなって…」の叙述の違いを通して、2の場面の大造じいさんの残雪への見方や気持ちの変化を読み深めることができるようにする。
- 少人数による話し合い活動(かっぱタイム)で、「ううん」とうなった大造じいさんの気持ちについて話し合い、付加・修正・強調しながら自分の考えをつくることができるようにする。

7 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、大造じいさんがガンの頭領である残雪を捕らえてやろうという意欲を持っていることや、はじめは「たかが鳥」と残雪のことを軽くみていた大造じいさんだったが、ウナギつりばりのしかけを見破り、仲間を指導してえだけを飲み込んだ残雪のちえに心から感心している様子を読み取り、推薦文に書きたい表現箇所を選んできた。

本時は、大造じいさんがかねてから計画していた作戦を実行し、残雪をしとめるという強い決意と絶対の自信を持って挑む姿、そしてそれが失敗したときの心境を読み深めていく場面である。

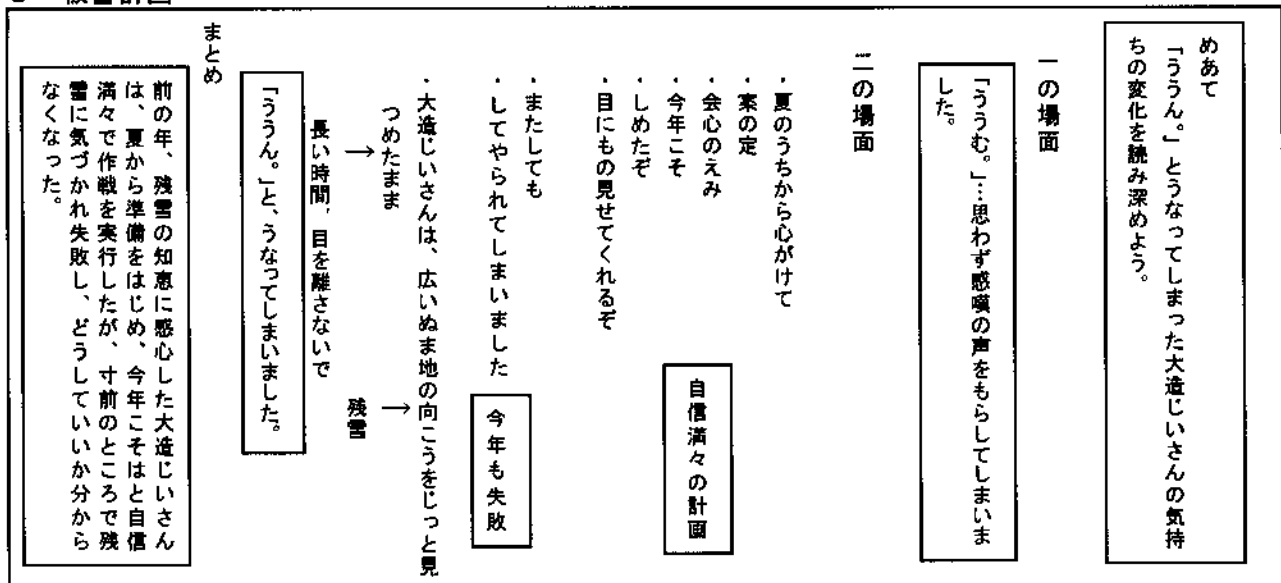
そこで本時指導にあたっては、まず、前時までの大造じいさんの残雪に対する気持ちの動きを想起させる。そして、中心文に出てきている『ううん。』とうなってしまった」とはどういうことなのかについて話し合う。

次に、書く活動①では、「ううむ。」から「ううん。」に大造じいさんの気持ちに変化した理由を短く書き、そう考えた根拠となる文を本文から書き抜かせる。(焦点化)

そして、かっぱタイムでは自分の読みをもとに、大造じいさんの残雪への気持ちの変化の理由について少人数で話し合い、考えを付加・修正・強調する。(可視化)(共有化)そして、大造じいさんの気持ちを全体で交流した後、「広いぬま地の向こうをじっと見つめたまま」の意味を考えさせ、「ううん。」とうなった大造じいさんのどうしていいか分からない気持ちを深く読みとらせた。

最後に、大造じいさんの残雪に対する気持ちの動きがわかる部分を考えに交えながら、「前の年、…」という書き出しで自分の考えを書き、発表する(書く活動②)。そして、本時場面で推薦した文章や表現に印をつけさせておく。

8 板書計画



9 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	教 師 の 支 援 (☆焦点化, 可視化, 共有化の視点から*評価規準)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ううん。」とうなってしまった大造じいさんの気持ちの変化を読み深めよう。</p> </div> <p>2 大造じいさんの気持ちの変化を読み深める。</p> <p>(1) 2の場面を音読する。</p> <p>(2) 1の場面での大造じいさんの気持ちを想起する。</p> <p>(3) 『「ううん。」とうなってしまった』とはどういうことかについて話し合う。 ※どうしていいか分からなくなる・がっかり・落ち込む。</p> <p>(4) 「ううむ。」から「ううん。」に大造じいさんの気持ちが変わったわけを考える。(書く活動①)</p> <p>(5) グループで話し合う。(かっぱタイム) ・自信満々の計画だったのに見破られたから ・あと少しでうまくいくところだったのに、うまくいかなかったから ・狩人のプライドが残雪によって、傷つけられたから。</p> <p>(6) 全体で交流する。 ・情景描写 ・大造じいさんの様子</p> <p>3 本時学習をまとめる。</p> <p>(1) めあてに対して深まった自分の考えを書きまとめる。(書く活動②)</p>	<p>○ 前時の場面での大造じいさんの残雪に対する見方を振り返り、学習計画をもとに本時の場面を確認する。</p> <p>○ 中心文「大造じいさんは、…『ううん。』とうなってしまいました。」とはどういうことかを確認し、本時は、二年目の戦いでも残雪にしてやられてしまう大造じいさんの気持ちを読み深めていくことをとらえさせる。</p> <p>○ 1の場面では、はじめは「たかが鳥」と軽く見ていたが、残雪のちえに心から感心したということ振り返る。</p> <p>○ 「うなる」という言葉に着目し、1の場面と残雪に対する気持ちが違うことをはっきりさせる。</p> <p>☆ 大造じいさんの気持ちの変化した理由について考え、短い言葉で書く。また、その根拠となる一文を書き抜くことを指示する。(焦点化)</p> <p>☆ グループで話し合っ、自分とは違う意見は討論し、プリントに修正を加えたり、付加したい考えがあれば、書き加えたりする。(可視化)(共有化)</p> <p>○ 机間指導をしながら、子どもの考えを把握し、話合いに生かすようにする。</p> <p>○ 情景描写も大造じいさんの心情を表していることに気付かせる。</p> <p>○ 「広いぬま地の向こうをじっと見つめたまま」という表現から大造じいさんの落胆の深さに気付かせる。</p> <p>○ 大造じいさんの残雪に対する見方を板書に整理し、書きまとめる際の手がかりとさせる。</p> <p>○ 大造じいさんの気持ちの変化がわかるように「前の年、」という書き出しを与える。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>前の年、残雪の知恵に感心した大造じいさんは、夏から準備をはじめ、今年こそはと自信満々で作戦を実行したが、寸前のところで残雪に気付かれ失敗し、どうしていいか分からなくなった。</p> </div> <p>(2) 本時に使った「読みのたから」を確認する。 ・会話文を読む。 ・類縁語と比べて読む。</p> <p>(3) 推薦ポイントに印をつける。</p>	<p>* 中心文をもとに叙述をつないだり、比べてりして「ううん。」とうなってしまった大造じいさんの気持ちの変化を書きまとめている。</p> <p>○ 自分が感動したところに印をつけさせる。</p>

9 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化, 可視化, 共有化の視点から*評価規準)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>ただの鳥に対してしているような気がしなかった 大造じいさんの気持ちの変化を読み深めよう。</p> <p>2 大造じいさんの気持ちを読み深める。</p> <p>(1) 中心文を読む。</p> <p>(2) 「強く心を打たれる」ということについて確認する。</p> <p>(3) 残雪のどんな姿から「ただの鳥」ではなく何に対してしているような気がしたのかを考え、自分の考えを書く。(書く活動①)</p> <p>(4) 自分の考えをもとに少人数で話し合う。 (かっぱタイム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ただの鳥」ではなく何だと思ったのか。 <p>【児童の反応予想】</p> <p>A: ライバル</p> <p>B: 頭領の中の頭領</p> <p>C: 自分よりすごい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてそのように思ったのか。 <p>(5) かっぱタイムで話し合ったことをもとに全体で話し合う</p> <p>3 本時学習をまとめる。</p> <p>(1) 話し合いの中で読み深めたことを書きまとめる。(書く活動②)</p>	<p>○ 前時までに学習してきたことを、掲示物を使って想起させる。</p> <p>○ 「強く心を打たれる」=「感動する。深く心に刻みつけて忘れられない。」ことを確認させる。</p> <p>☆ 残雪のどんな姿から「ただの鳥」に対するような気がしなくなったのか、根拠となる一文に線を引かせ、解釈を加え、考えを書かせる。(焦点化)</p> <p>☆ ワークシートに書いた自分の考えを見ながら話し合いをする。(可視化)</p> <p>○ かっぱタイムでは、大造じいさんが残雪のことを「ただの鳥」ではなく何だと思ったのかとその根拠を話し合わせる。</p> <p>☆ 友達の考えを聞いて、考えを付け加えたり、変えたり、深めたりしながら話し合いができるようにする。(共有化)</p> <p>○ 机間指導をしながら、子どもの考えを把握し、全体の話合いに生かすようにする。</p> <p>○ 全体交流では、自分と同じかそれ以上という大造じいさんの残雪に対する見方をとらえさせる。</p> <p>○ 「～のようでした。」「～のようでもありました。」という文末表現に気付かせ、どうして大造じいさんはそこまで思えたのか考えさせる。</p> <p>○ 書きまとめやすいように、考えが書きやすい工夫のある学習プリントを準備する。</p>
<p>大造じいさんは、残雪を「たかが鳥」とか「にくい敵」など思っていたが、仲間を救おうとする姿や頭領としての堂々とした姿に深く感動して、鳥というより自分と対等、それ以上の相手だと思ふようになった。</p> <p>(2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼称の変化 ・文末表現 <p>(3) 推薦ポイントに印をつける。</p>	<p>* かっぱタイムや全体の話合い、板書などをもとに、本時の学習で読み深めた「ただの鳥でなく何に対してしている気がしたか。」ということについて書きまとめている。</p> <p>○ 3の場面で自分が推薦したい言葉や文に印をつけさせる。</p>

5 本時 (8 / 11)
公開授業① 読み深め④

6 本時の目標

- 「いつまでも、いつまでも、見守っていました。」という叙述を中心に、「たかが鳥」と考えていた残雪に対する見方の変化を四つの場面をつないで読み取り、大造じいさんの気持ちを読み深めることができるようにする。
- 目的をもった話し合い活動(かっぱタイム「旅」)で、残雪を見守っていた大造じいさんの気持ちについて話し合い、付加・修正・強調しながら自分の考えをつくることができるようにする。

7 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、それぞれの場面の中心文をもとに、大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化を読み深め、残雪の頭領としての堂々たる態度に強く心を打たれる姿をとらえている。

本時は、「いつまでも、いつまでも、見守っていました。」という叙述を中心に、はじめは「たかが鳥」と考えていた残雪に対する見方の変化を四つの場面をつないで読み取り、残雪を尊敬し大切なライバルと考え、来年も生きて戻ってきてほしいと強く願っている大造じいさんの気持ちを読み深めていくことをねらいとしている。

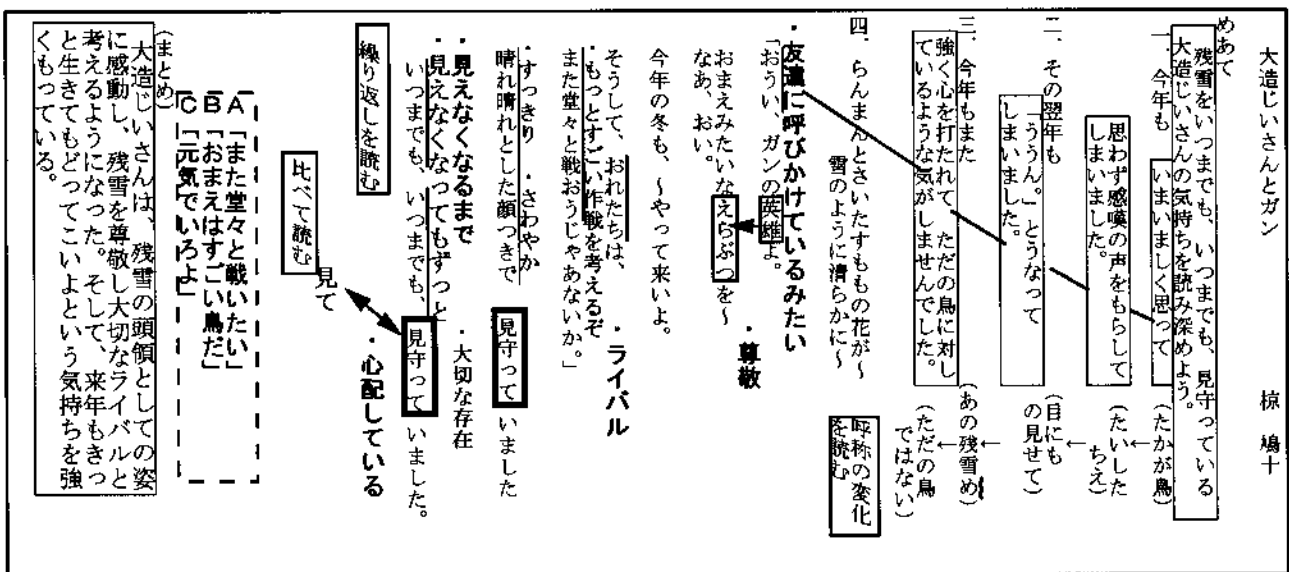
そこで本時指導にあたっては、まず、大造じいさんの残雪に対する見方を振り返り、中心文の中の「見守っていました。」という叙述に立ち止まらせ、類縁語「見て」「見送って」と比べることで残雪を心配している大造じいさんの気持ちに気付かせる。

次に、①「大造じいさんは今、どんな思いで残雪を見守っているのか」を短い言葉で書きまとめる。②中心文以外に大造じいさんの思いが強く分かる一文を選ぶ。③選んだ根拠の文と中心文をつないで分かることを書き込ませる。(書く活動①)(焦点化)

そして、少人数による話し合い(かっぱタイム)では、考えの違いを板書に整理した後、目的をもって相互交流「旅」を行う。(可視化)(共有化)その間、机間指導をしてまわり、考えの傾向をつかむ。全体交流では、付加・修正・強調された自分の読みをもとに、大造じいさんの気持ちについての共有化を図る。その中で、情景描写や残雪を「ガンの英雄」「えらぶつ」と呼称が変化していることや、「おれたちは、また堂々と戦おうじゃないか。」と呼びかける姿に着目させ、残雪を尊敬し大切なライバルと考えるようになった大造じいさんの変容に気付かせる。そして、ガンの習性を振り返らせ、中心文「いつまでも、いつまでも、」という表現から来年もきっと生きて戻ってこいという思いの深さに気付かせる。

最後に、共有化したことをもとに、飛び去っていく残雪を見守る大造じいさんの気持ちを板書をもとに書きまとめ、発表する。(書く活動②)そして、本時で使った「読みのたから」を確認した後、本時場面で推薦したい文章や表現に印を付けさせておく。

8 板書計画



9 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化, 可視化, 共有化の点から*評価規準)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>残雪をいつまでも、いつまでも、見守っている大造じいさんの気持ちを読み深めよう。</p> </div> <p>2 大造じいさんの残雪に対する気持ちについて読み深める。 (1) 4の場面を音読する。</p> <p>(2) 「見守っていました。」から、何を見て、どんなことを考えているのかについて話し合う。</p> <p>(3) 大造じいさんがどんな思いで残雪を見守っていたのか、自分の考えを書く。(書く活動①)</p> <p>(4) 目的をもって少人数で話し合う。(かっぱタイム「旅」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残雪とまた正々堂々と戦いたい ・本当にすごい鳥だ ・元気でいてほしい <p>(5) 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情景描写 ・大造じいさんのよびかけ ・大造じいさんの様子 <p>3 本時学習をまとめる。 (1) めあてに対して深まった自分の考えをまとめる。(書く活動②)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大造じいさんは残雪の頭領としての姿に感動し、残雪を尊敬し大切なライバルと考えるようになった。そして、来年もきっと生きて戻ってこいという気持ちを強くもっている。</p> </div>	<p>○ 今までの場面での大造じいさんの残雪に対する見方を振り返り、大造じいさんの気持ちの変化を確認する。</p> <p>○ 中心文「いつまでも、いつまでも、見守っていました。」を確認し、どんな気持ちで残雪を見守っていたのか大造じいさんの気持ちを読み深めていくことをとらえさせる。</p> <p>○ 「見守っていました。」という叙述に立ち止まらせ、「見て」という言葉と比べて考えさせる。</p> <p>☆ ①「大造じいさんは、残雪のことをどんな思いで見守っていたのか」を短い言葉で書く、②大造じいさんの気持ちの変化が分かる一文に線を引かせる、③選んだ根拠の文と中心文をつないで分かることを書き込む、(焦点化)という指示を掲示する。</p> <p>☆ 自分の考えを友達に分かるように板書に明らかにし、同じ考えや違う考えがあることに気付かせる。(可視化)</p> <p>☆ 自分の考えを付加・強調するために同じ考えの友達と話し合ったり、修正するために違う考えの友達と話し合ったりして自分の考えを深めさせる。(共有化)</p> <p>○ 情景描写や「ガンの英雄」「えらぶつ」と呼称が変化していること、「おれたちは、また正々堂々と戦おうじゃないか。」と残雪に呼びかける姿に着目させ、残雪を尊敬し大切なライバルと考えるようになった大造じいさんの変容に気付かせる。</p> <p>○ 「いつまでも、いつまでも、」という表現から大造じいさんの思いの深さに気付かせる。</p> <p>○ ガンの習性について振り返らせる。</p> <p>○ 大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちを板書に整理し、書きまとめる際の手がかりとさせる。</p>
<p>(2) 本時に使った「読みのたから」を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・類縁語と比べて読む ・場面をつないで読む ・呼称の変化を読む ・繰り返しを読む <p>(3) 推薦ポイントに印をつける。</p>	<p>* 中心文をもとに叙述をつないだり、比べたりして「いつまでも、いつまでも、見守っていた」大造じいさんの気持ちを書きまとめている。</p> <p>○ 自分が感動したところに印をつけさせる。</p>